

# 医療機関における、モチベーションに重点を置いた就労支援 ～IPS就労支援モデルに基づく実践～

○川本 悠大（社会医療法人清和会西川病院 作業療法科 作業療法士）  
 澄田 依子（社会医療法人清和会西川病院 相談サービス課）  
 林 輝男（社会医療法人清和会西川病院 医局）

## 1 はじめに

厚生労働省によれば、障害者のハローワークへの新規求職申込件数は平成21年度から毎年増加し、令和元年度には223,229件に上っている<sup>1)</sup>。中でも精神障害者の申込件数は平成21年度の3.23倍に上り、他障害と比較しても突出した急激な増加を認めている。さらに統合失調症患者を対象として行われたリカバリーゴールに関する意識調査で、当事者が自身のリカバリーゴールとして最も多く挙げたのは「働くこと」であったことから<sup>2)</sup>、近年の精神障害者の就労に対するニーズの高まりは極めて顕著と言える。

社会医療法人清和会西川病院（以下「当院」という。）では2016年からIndividual Placement and Support就労支援モデル（以下「IPS」という。）に基づき訓練を経ずに直接一般企業での就職を目指す個別就労支援を提供する支援チーム、S・IPSを立ち上げた。IPSでは本人の「働きたい」というモチベーションを中核に据え、それを尊重しながら支援を展開する。本報告では、支援内容、実績に加え、症例報告を提示し訓練を経ず本人の希望、モチベーションを優先した支援でなぜ症例が一般就労を実現出来たのか考察する。

## 2 IPSとは

IPSとは米国で開発された、一般就労を通して精神障害者個人のリカバリーを目指す就労支援モデルである。現行の、事業所で訓練を段階的に行い、就労準備性を高めた上で一般就労を目指すtrain-placeモデルに基づく支援とは異なり、「その人が将来どの様な仕事に就くかは誰にも予想が出来ない」という考えから、事業所等での訓練期間を設けず、一般就労を希望すればすぐに就職活動を開始し、必要なスキルは就職後働きながら習得することを目指す、place-trainモデルに基づいた支援が特徴である。IPSは、支援効果について科学的なエビデンスが示されており、従来の支援と比較し約2.5倍高い就労率が示されている。

IPSには支援を行う上で最も重視すべき8つの原則が定められ、それに忠実に支援を行うほど就労率も高まる事が示されている。以下に8つの原則を示すが、原則の中でも特に、『クライアントの好みの尊重』が支援の中で鍵となる事が多い。当院ではIPSの原則に可能な限り則り就労支援を行っている（表1）。

表1 IPSの8原則

1	除外基準なし
2	就労と精神保健サービスの統合
3	一般就労
4	保障計画
5	迅速な職探し
6	継続的な支援
7	クライアントの好みの尊重
8	体系的な職場訪問

## 3 支援実績

S・IPSの開設から2021年6月末までの実績を報告する。

S・IPSの利用者は6年間で141名、延べ就職件数は173件で、離職件数は88件だった。就職者のうち、全体の72%は障害を開示して就職した。IPSでは障害の開示についても利用者の好みを尊重するため、障害を開示しない場合でも就労支援を提供する（表2）。S・IPSの支援を受けて就職した方の平均就労期間は306日であった。

図1はS・IPS利用開始時の利用者のサービス利用状況である。当院は精神科デイケア、就労継続支援A型・B型事業所も同一法人内で運営しているが、S・IPS利用者のうち最も多いのは外来通院のみの方であった。就労希望がありながらも事業所等に繋がらない外来通院者も存在することが推察される。また、入院中から就労支援を開始するというのもS・IPSの特徴の一つである。

表2 2021年6月末までの就職、離職、障害開示の件数

	就職件数	離職件数	障害開示	開示の割合
2016年	38件	23件	16件	43%
2017年	31件	12件	27件	87%
2018年	29件	10件	24件	83%
2019年	30件	18件	18件	60%
2020年	35件	20件	30件	86%
2021年	10件	5件	9件	90%
合計	173件	88件	124件	72%

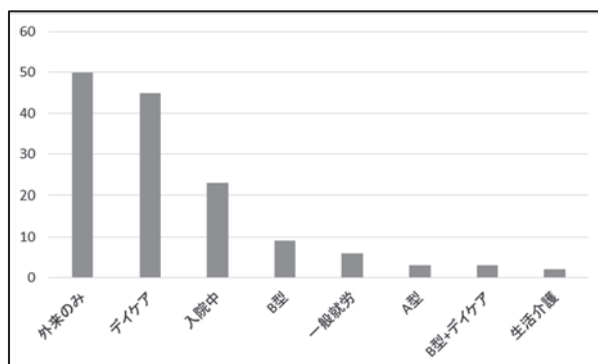


図1 S・IPS利用開始時のサービス利用状況

## 4 ケース報告

### (1) ケース概要

30代男性、躁うつ病（精神障害者手帳3級）

地元の大学卒業後、一般企業に就職。1年後朝起きられなくなり、X年7月より精神科クリニック通院。以後転職を繰り返す。X+3年5月から不安、焦燥感、動悸、疲労感を訴え早退を繰り返し、X+3年7月当院入院。両親とは同居困難のため、債務整理をして生活保護を受給し、アパートへX+3年10月に退院。その後精神科デイケア、X+4年7月から就労継続支援B型事業所（以下「B型」という。）を利用開始。1年後の一般就労を目標としていた。B型では、作業能力には大きな問題はないが、体調不良を理由とする欠勤が多かった。X+5年9月よりS・IPSの支援を開始した。

### (2) 支援経過

S・IPS支援開始と共に本人の就労に対する希望や強みを面談を通して確認し、併せてハローワークの相談に同行し、「一般就労したい」という本人の希望を尊重してモチベーションを高める支援を行った。面談やハローワークでの相談を行う中で、学生時代のアルバイトでタイヤ交換をしていたこと、そのアルバイトを気に入っていたこと、バイクのエンジン音から異常に気付いた等のエピソードが思い出され、車にも強い興味を持っていることが改めて共有出来たため、車に関わる仕事に絞って就職活動を進めた。

車の部品の製造やバス会社の整備業務など本人が興味を持った求人へ障害を開示し見学や応募を続けたが就労にはなかなか至らなかった。しかし、あくまでも本人の「やりたい」と思う仕事、企業探しを継続した。

職場開拓を行う中で、支援者が発見したガソリンスタンドの求人に応募し、採用に至った。1日6時間、週5日の勤務を開始したが、予想に反してB型で見られたような体調不良による欠勤はなかった。以後、勤務時間、勤務日数は本人、会社と検討しながら延長する事が出来た。採用後も支援者は職場に定期的に訪問し、職場の意見を確認すると共に、本人とも面談や電話連絡によるフォローアップを図り、定着支援を継続した。

最終的には、週6日勤務をこなし、生活保護を終了し、学生時代の奨学金を完済するに至り、念願であった自家用車を購入した。

### (3) まとめ

IPSでは求職活動中のモチベーションの維持と共に、就職後のモチベーションの維持を積極的に図る。そのため、一般就労を希望した方には誰でも支援を提供する。今回のケースでも本人の「一般就労したい」というモチベーションを否定したり、「まずはB型への出勤が安定してから」と段階的な目標を設定することはせず、一般就労に向けた就職活動を行った。また、面談などを通して共有した本人

の興味や強みを活かせる仕事に絞って就職活動を行うことで就職活動に対する本人のモチベーションを維持することが出来た。B型利用時と比較すると勤務時間、勤務日数も増加した仕事でも本人は楽しみながら仕事を継続する事が出来た。就労継続を実現した時の本人へのインタビューの中で、「なぜ休まずに就労出来るのか」との問いに、本人は「小さな職場なので自分が休むとみんなに迷惑が掛かる」、「一職員として認められているから」と語っている。一般企業というリアルな職場環境が就労後のモチベーションの維持に大きな役割を果たしたことを示している。

支援者として、「誰がどの様な仕事に就くのか、どの様な仕事で上手くいくかは予想出来ない」からこそ、本人の好みを何よりも尊重するという原則に基づき支援を行うことが重要だと学んだケースであった。

## 5 まとめ

IPSは一般就労を通して利用者のリカバリーを目指す就労支援である。特に、利用者の「働きたい」というモチベーションを尊重、維持、強化し、本人の好みを何よりも尊重する支援を行うことで、一般就労率を高めるだけでなく、リカバリーの実現に対しても寄与できる。

精神障害者の就労の成功のためには、その特性や価値観の多様性に応じた支援を提供していくことが必要と思われる。B型などのような、通所して段階的にステップアップをしていく支援を望む方もいれば、IPSのようにすぐに現実の職場で働きたいと希望する方もいる。彼らの多様なニーズに応えることで、結果的にモチベーションを維持、強化し、より高い成果を得ることが出来るのではないだろうか。今後の就労支援制度のあり方を議論する上でIPS的な視点は有益であると考えられる。

### 【参考文献】

- 1) 厚生労働省報道発表資料『令和元年度 障害者の職業紹介状況等』。厚生労働省, (2019)
- 2) 藤田英美, 加藤大慈, 内山繁樹ほか『統合失調症患者における疾病管理とリカバリー (Illness Management and Recovery:IMR) の有効性』, 「精神医学55(1)」, 医学書院 (2013), p. 21-28
- 3) Becker, D.R., & Drake, R.E. (大島巖, 松為信雄, 伊藤順一郎監訳)「精神障害をもつ人たちのワーキングライフ IPS: チームアプローチに基づく援助付き雇用ガイド」, 金剛出版 (2004)
- 4) サラ・J・スワンソン, デボラ・R・ベッカー (中原さとみ訳, 林輝男監訳)「IPS援助付き雇用 精神障害者の「仕事がある人生」のサポート」, 金剛出版 (2021)
- 5) 伊藤順一郎・香田真希子監修「リカバリーを応援する個別就労支援プログラム IPS入門」, 特定非営利活動法人地域精神保健福祉機構 (2010)

### 【連絡先】

川本 悠大, 社会医療法人清和会西川病院  
e-mail : sips@aroma.ocn.ne.jp